

■素晴らしい体験ができました

-23年度情報科学部修学旅行-

パリ班(11/18~23)



ほとんどの生徒が、初めて足を踏み入れるであろうパリ。日本とは違う空気を肌で感じながら、目まぐるしく変わる美しい景色に、私のカメラのシャッターを切る手は、一向に止めるのを知りませんでした。一番印象的だったのは、今年度から加わったというセヌ川クルーズ。クルーズは寒かったですが、そこから見える景色はまさに絶景！キラキラと輝く星が散りばめられたような町並みに、まるで幻想の世界に迷い込んだかのような錯覚に陥りました。あまりにも充実したスケジュールに私の身体はもうくたくたでしたが、また、すぐにでも行きたいと思えるのは、私がパリの魅力に惚れ込んでしまった証拠だと思います。今回の体験によって、私達の作品にもよい影響が出ることを期待しつつ制作に励みたいと思います。

美術デザイン科 2-1 山本 葉子

沖縄班(11/20~23)



434名が参加した沖縄への修学旅行は、様々なことを学び有意義なものとなりました。

美ら海水族館では、その大きさと周辺の景色の美しさに感動させられ、国際通りでは友達と買い物を楽しんだり、とても豊かな時間を過ごしました。

そしてひめゆりの塔や摩文仁の丘では戦争の悲惨さや過酷さを学び、戦争の恐ろしさを痛感し、もう戦争がおこることのない今のような平和が続くことを願わずにはいられません。

修学旅行を通して、自分自身を成長し、多くの思い出を刻み、とてもいい勉強ができました。

普通科総合選択コース 2-1 古泉 元佐

■1年生キャリアガイダンス

-動き始めた高校生活-



11月18日、第1学年キャリア教育が行われました。

昭栄広報次長・桑田篤志先生による「動き始めた高校生活」と題した講演。内容は、①社会の動きを知る②自分のこと

を知る③履修選択は将来の進路選択(文系・理系)④これからやるべきこと(目標を高く持つ)⑤普段の過ごし方と確認事項(自宅学習・受験科目)の5項目でした。

さらに大学・専門学校30数名の講師による19の分科会(①電気電子②自動車③建築土木④コンピュータ⑤デザイン⑥エンタテインメント⑦旅行観光⑧事務営業販売⑨公務員⑩医療⑪医療事務⑫教育保育心理⑬福祉⑭スポーツ⑮栄養調理製菓⑯美容⑰ファッション⑱動物⑲歯科衛生の仕事)が展開されました。生徒たちはその中から2分科を選択し、各会場の講義を受けました。気分は、もはや大学生・専門学校生のようなでした。講師の先生方からは、熱心に話を聞いてくれたとお褒めの言葉をいただきました。

ここ数年厳しい経済状況ではありますが、自分の夢や希望が叶えられるように、今から！今日から！2年後の進路を考えよう！
第一学年主任 青木啓治

■作新幼稚園との交流

-「こどものくに」聴蛙館にて-



ライフデザイン科3年生保育コース17名が12月1日(木)聴蛙館にて、作新幼稚園年長さんと交流をしました。今年の保育コースの生徒達は、幼稚園との本格的な交流を実施しようと、年間を通して努力してきました。

また、幼稚園実習や運動会ボランティア・保育検定を行い、保育技術の腕もみがきました。

その集大成として「こどものくに」というテーマを決め、保育発表と遊びの交流を実施しました。生徒達は発表のために、一生懸命作品を作ったり、ピアノの練習をしたり放課後居残りをして頑張っていました。

自分が幼稚園児の前にたって、お話したり、演じたりすることの難しさを痛切に感じたようです。この体験が今後の人生に役立つことを期待しています。

ライフデザイン科教諭 山本 貴子

■クラス立案の校外学習

11月25日(金)自然体験と環境エコをテーマに掲げ、ビジネスサイエンス科とコンピュータサイエンス科の3年生85名で校外学習を実施しました。



みずほの自然の森公園にて ~自然に親しもう~

バーベキューの炉6基を貸し切り、気の合う仲間と暖をとりながら、生徒たちは思い思いに野菜や肉を焼き、ある班は枝木をくべ過ぎて野菜をまる焦げにしたり、ある班は野菜と肉を一度に大量に入れてしまい、野菜炒めになってしまったりと、私にはとても美味しそうには見えない物体にも、生徒たちは実に満足そうに舌鼓を打っていました。生徒たちとの距離が確実に近くなった一日でした。

クリーンパーク茂原見学 ~環境エコを考えよう~

バーベキューの時に出了たごみを班ごとにきちんと分別処理し、周辺のごみ拾いを済ませて、次の目的地へ。宇都宮市が一日に出すごみの量約450t、その6割の270tを毎日処理しているクリーンパーク茂原焼却ごみ処理施設を見学しました。可燃物のごみは、1,400℃の高温で完全燃焼させ、三重のフィルタを通すことにより、臭気や粉塵・ダイオキシン対策に努めています。また、焼却時に発生する熱を利用し、最大7,500kwの発電を行っており、この発電量は、一般家庭2万世帯以上の消費電力に相当するのだそうです。さらに、焼却灰は、スラグと呼ばれ、建築資材(特に道路の舗装材)として有効利用されているとのことでした。そして、この見学を通して一番考えさせられたことは、びんや缶・ペットボトル・不燃ごみの扱いです。これらのごみは、選別処理された後、リサイクル業者へ搬出されます。びんと缶は機械による自動選別ですが、ペットボトルは、未だに手選別が行われています。さらに、びんやペットボトルに飲み残しやジャケットが付いたままであったりすると、売却金額が安価になってしまうとのことでした。ごみを出す前に、洗浄してから種類ごとにきちんと分別するというほんの少しの手間を惜しんではいけないことを、見学者一同肝に銘じました。

ビジネスサイエンス科教諭 猪瀬 昌久

■消費者問題・裁判員制度特別講座

11月18日、聴蛙館にて、3年生を対象として、消費者問題および裁判員制度に関する特別講座を実施しました。

消費者問題については、講師の小倉崇徳弁護士から、架空請求やマルチ商法などの実態と防止策を、事例を取り上げながら分かりやすく解説していただきました。卒業後親元を離れて暮らす生徒も少なからずいると思われる、小倉講師が力説した「うまい話はない」ことを念頭に入れ、被害に遭わないよう十分注意して欲しいと思います。

2009年に始まった裁判員制度については、宇都宮地方検察庁から青柳和子・松井信仁の両氏を講師に迎え、模擬裁判のDVD視聴後、制度内容の説明を受けました。



特に、「裁判人は大人としての責務です」との言葉は、やがて成人となる生徒たちにとって大きな意味があったと思います。

社会科教諭 渡辺 巧

■スポ・レク エコとちぎ

-『とちまる君』の友達アース君-



“とびっきり 栃木でいい汗 いい出会い”のスローガンのもと、県内各地のスポーツ施設において、11月5日(土)~8日(火)に全国から県の代表選手が集まり、スポーツ・レクリエーション大会が開催されました。宇都宮市教育委員会事務局から、創立125周年記念のエコプロジェクトマスコットとして、廃品ドラム缶を用いた生徒が作成した『ECOロボットアース君』の展示依頼がありました。宇都宮市の体育館(ソフトバレーボール会場)の入口付近に、「スポレク“エコとちぎ”2011”マスコット『とちまる君』のお友達として応援に行ってきました。

自動車整備士養成科教諭 木村 健二